

# 日本中小製造業による西バルカン半島との直接貿易の可能性～

## 新潟県燕・三条地域をケースとして

バロリ ブレンディ

新潟大学産学地域人材育成センター

### 要旨：

本稿ではまず、燕・三条の地場産業及び地域産業構造の変化と現状について統計調査等により分析し、地場産業を中心とする地域経済構造が大きく変化していることを紹介する。次いで、西バルカン半島の市場ニーズを調査しこれらの地場産業の商品展開や輸出品目を絞り込む。さらに、日本から西バルカン半島への流通の手法を検討する目的である。

キーワード：燕・三条製造業、地域活性化、西バルカン半島、外国直接投資。

### I. はじめに

近年、新興国の工業化等により国際輸出市場での競合が激化し、合わせて国内生産の空洞化も進み、日本国内地場産業が危機に瀕している。地域振興と地域活性化のためには、現在ある地場産業を競争力ある産業として再生することが不可欠である。新潟県燕・三条地域は金属加工主とする地場産業の地として知られ、燕は金属洋食器、金属ハウスウェア、三条は作業工具、利器・工匠具等で有名である。さらに、この地域は、製品の高級化や新分野への進出等により、変化の激しい市場に対応する産地としてしばしば紹介されている。

本稿では、地域活性化のモデルケースとして、私が長く研究を続けている西バルカン半島への燕・三条製品の輸出を検討したい。西バルカン半島は2500万人で、地域間で中欧自由貿易協定（CEFTA）が施行されている。最近、西バルカン半島と他のヨーロッパやアメリカの諸外国との経済関係は増大している。一方、現在西バルカン半島と日本の経済関係は乏しく、企業による直接投資や貿易はわずかである。しかし、日本製品に対するニーズは極めて高くこの市場には燕・三条製品を受け入れる条件が整っている。

## II. 燕・三条製造業の調査

三条・燕地域は、金属製品製造の地場産業地域として広く知られている。三条市で

は、ガス機器・石油機器、ペンチ・ドライバー等の作業工具、鍋・フライパン等の金属プレス製品、包丁・はさみ・のみ等の利器工匠具・手道具、屋根材等の建築用金属製品、その他の金物が主要製品となっている。

燕市では、金属プレス製品、ナイフ・フォーク・スプーン等の洋食器が主要製品となっている。これらの品目は、比較的国内の市場規模が小さく、両市とも、ニッチな分野で高い全国シェアを有している。燕市の洋食器の場合、国内の競合産地は特に見あたらず、全国シェアの6～8割を占めていると推察される。

## III. 西バルカン半島の調査

一方、西バルカン半島地域は黒海・エーゲ海・地中海・アドリア海に囲まれた欧州東南部に

位置している。近年、各国の首都人口は100万人を超え、社会基盤の安定化とともに、経済も成長の兆しを見せている。

こうした状況の中、日本製品に関心の高い富裕層をターゲットとした、燕・三条製品は輸入高級製品を購入できる環境が整いつつである。加えて、その地域では日本製品に対するニーズは極めて高くこの市場には燕・三条製品を受け入れる条件が明らかにする。本研究の特徴は、商社に頼らず、現地に直送することで流通を簡素化し、西バルカン半島販路拡大に寄与できるかどうか明らかにする。

西バルカン半島で、燕・三条の製品は「日本を源泉としアジアを代表するグローバルプレイヤー」となることを目指し、本研究の一番成果として考えられる。また、「既進出市場の強化」に取り組んで行くために、本研究の成果に基づく、近い将来に「新規市場への事業拡大」というテーマを進んでいきたい企画がある。

ついに、公的機関による販路拡大等の支援のため、自主企画展の開催、西バルカン半島でPRする場の提供、海外での情報拠点開設、日本国内外の支援を受けて西バルカン半島への様々なものづくりイベントに参加等が考えられる。

## IV. おわりに

さらに、西バルカン半島で燕・三条製品の輸入を行うに当たって、留意すべき重要なリスクがいくつかある。リスクが顕在化すると、企業の損益に影響が出るだけでなく、企業の評判にも悪影響を及ぼす可能性がある。鉱業に関するリスクは、4つに分類することができる。各リスクの詳細は以下のとおりである：

### (1) 政治的リスク

政情不安：政治体制の大きな変化や総選挙が要因である。

法規制の不確実性：西バルカン半島では貿易関連規則は頻繁に変更される傾向がある。また政府は貿易からの歳入を増やすために、当初の契約の内容を後に再交渉により変更する場合がある。

### (2) 運営上でのリスク

インフラ整備：西バルカン半島ではインフラが整備されていない。インフラ整備の問題は、様々のプロジェクトや活動の遅れの要因になる可能性が高い。

土地の所有権：旧共産諸国の西バルカン半島では土地の実際の所有者が曖昧な場合がある。また商社が土地の所有権を獲得した場合でも、地域社会が強い所有意識を持ち続けることもある。

### (3) 安全面でのリスク

犯罪：犯罪率の高い西バルカン半島で貿易プロジェクトを運営する場合は注意が必要である。

抗議活動：反政府抗議運動や特定の地域での反対する抗議活動などは貿易に影響を与える可能性がある。

### (4) 規範面でのリスク

贈収賄：貿易では資源国政府と長期にわたる交渉を行うため、贈収賄のリスクは高い。

地元でのパートナーシップ: パートナーシップの締結は贈収賄のリスクにつながる可能性がある。またパートナーシップを結ぶ相手をよく理解していないと、後々に問題が発覚し、企業の評判に悪影響を与える可能性がある。

地域社会との関係: 地域社会との問題を防ぐため、地域住民の要望や不満をよく理解し、友好的関係を築く必要がある。

以上のようなリスクを軽減するためのリスクを監視して、状況に合わせリスク管理の体制を順応させることが必要となると考えられる。

結論としては、西バルカンの市場は大規模の賦存可能性、またメジャー企業の参入、開発の可能性はあまり高くないものの、中～小規模ものづくり企業の開発には高いポテンシャルを持つ。日本の製品の輸入の促進、秩序ある開発のためには市場ポテンシャルがあることが最も重要な点であるの関わらず半島内外の投資を促進するための環境整備が西バルカン半島にとって早急に取り組むべき課題である。過去の社会体制からなかなか脱し切れていない状態をどう改善するか、半島全体の良いガバナンス に向けた取り組みが必要である。